

報道関係各位

2018年1月31日  
ディジ インターナショナル株式会社

ディジ インターナショナル  
スマートエッジ IoT モジュールとモデムの  
新しい Digi XBee3 シリーズを発表

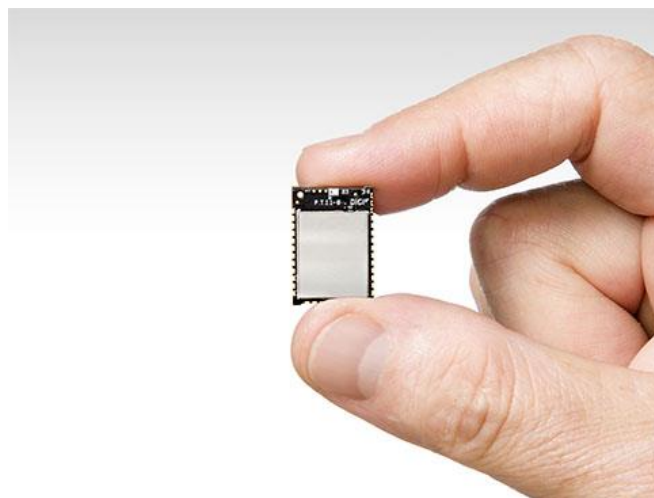
新マイクロフォームファクタの RF モジュールとセルラーモデムはプログラマビリティと柔軟なアーキテクチャを備え、先進的な IoT エッジ接続を実現する敏捷性を提供

IoT(Internet of Things)コネクティビティ製品・サービスのグローバルリーディングプロバイダであるディジ インターナショナル株式会社(本社・渋谷区、マイク・ゲルゲン代表取締役)は本日、次世代 RF モジュールおよびセルラーモデム「Digi XBee3」シリーズの発売を発表しました。ネットワークエッジでより大きな IoT 革新をサポートできる新しいマイクロフォームファクタを採用した DigiXBee3 シリーズは、ニーズや地域ごとの要件変更に応じて新しい機能の統合を可能にする IoT コネクティビティに対するモジュールアプローチを拡張します。Digi XBee3 はまた、MicroPython のプログラマビリティとデュアルモード無線によりワイヤレスデザインの柔軟性を提供し、より迅速な開発、試作化、量産化が可能な革新的な IoT ソリューションを実現する機能を容易に追加できます。

【マイクロフォームファクタおよび SMT、スルーホールフォームファクタ】

現行の Digi XBee RF モジュールの 3 分の 1 のサイズの Digi XBee3 マイクロフォームファクタ (13mm×19mm)は、近距離および LPWAN(Low Power Wide Area Network)アプリケーション向けの RF コネクティビティを提供する業界最小の MicroPython プログラマブルモジュールの 1 つです。

Digi XBee3 マイクロは、インターポータボードに取り付けられれば、既存の Digi XBee SMT やスルーホールフォームファクタでも利用可能で、真に革新的でスマートな IoT ソリューションの開発をサポートする業界最小の RF モジュール固有のあらゆる利点を自動的に提供します。加えて、



Digi XBee3

スルーホールフォームファクタは、開発、プロトタイピング、早期生産フェーズのスピードアップに必要な高度な性能・機能を必要とする人たちにとって、検証・移行プラットフォームとして理想的です。Digi XBee3 Cellular は、現行の標準的なスルーホールフォームファクタで提供されています。

### 【大きな特徴を持つマイクロモジュール】

サイズ、重量、消費電力を削減した Digi XBee3 シリーズは、コンパクトでバッテリー駆動のアプリケーションに最適です。Digi XBee3 は、デュアルモード無線、ビジネスルールとアプリケーションロジックの両方に対応した MicroPython、それらをすべて管理するツールなど、複数レベルのプログラム機能を提供します。エッジプログラマビリティに加えて、ネットワークエッジでインテリジェンスを提供する低電力マイクロコントローラやデバイスを変更せずにさまざまなプロトコル間を切り替える機能を提供します。

内蔵の Digi TrustFence セキュリティフレームワークを搭載した Digi XBee3 の全製品は、U.FL、パッド、チップアンテナのオプションがあります。

### 【デザインの柔軟性】

Digi XBee3 シリーズはまず、RF(ZigBee 3.0、IEEE 802.15.4)とセルラーオプション(Cellular Cat-1)の両方で提供されます。Digi XBee3 は今後数カ月の間に Bluetooth LE にソフトウェアアップグレード可能で、さらに追加の RF プロトコル(DigiMesh、Wi-Fi)と 2 つのセルラーモデム(Cellular LTE-M、Cellular NB-IoT)で利用可能になります。

### 【Digi XBee3 の先進的な機能】

- フィールド内デバイスへの OTA(無線)でのバグ修正や新機能の容易な変更
- 状況に応じてのダイナミック・リコンフィグレーション
- MicroPython プログラミング機能によりデータを集約、格納、変換、フィルタリングするビジネスルールを容易に確立
- 優先データとデバイスの健全性に関するアラートとアラームを作成
- 最新のセンサやアクチュエータを駆動するための I2C、SPI など高度な I/O サポート
- エレクトロニクスの再設計なしでマイクロコントローラを要するデバイス向けの制御ロジックを提供
- Digi Remote Manager を使って、アクションナブル・インフォメーションの優先順位付け/送信によるより優れた帯域幅の管理が可能
- AWS や Azure などのクラウドプラットフォームから要求されたふるまいに対する動的な変更(例えば、ローカルの状況に基づいたリアルタイムの意思決定を可能にするなど)
- クラウドに依存せず動的に実行されるロジックによって、通信停止中も継続的に動作

### 【開発キットの入手について】

評価およびテスト向けの Digi XBee3 ZigBee メッシュキットは入手可能です。本キットには3つの Digi XBee3 モジュールと3つの Digi XBee グローブ開発ボードが含まれ、カスタマは即座に ZigBee メッシュネットワークを構築することができます。

「Digi XBee3 の開発により、マイクロフォームファクタに高度な機能と柔軟性を組み合わせ、初の“スマートエッジ”IoT モジュールを提供することができました。インテリジェンスがIoT ネットワークの最先端に移るにつれ、市場には、極めて有能で適応性があり、セキュアで拡張性の高いハードウェアが必要となります。当社が Digi XBee3 で提供したのは、分散ネットワーク上で収集されたデータを集約し分析するソリューションを提供し、特定のビジネスルールとアプリケーションロジック、すなわち本質的な次世代の IoT アプリケーションに適用できるモジュールなのです」と Digi International の製品担当副社長であるスコット・ネルソンは話しています。

Digi XBee3 の詳細については、<https://www.digi.com/pr/xbee3> をご覧ください。

本リリースについての問い合わせ先：

ディジ インターナショナル株式会社

江川 将峰

Tel:03-5428-0261、Fax:03-5428-0262

E-mail : shoho\_egawa@digi-intl.co.jp